

エビフリモちゃんの「医療現場へ突撃インタビュー」

みどり市民病院 呼吸器・アレルギー内科医の
中野先生に聞きました!!

かくれんぼの名人「肺がん」—早期検査で見抜け

「肺がん」のはなし



Instagram

名古屋市立大学医学部附属
みどり市民病院
呼吸器・アレルギー内科

中野 暁子

[なかの・あきこ]

2010年大分大学医学部卒業、
2021年名古屋市立大学大学院
医学研究科卒業、博士(医学)、
呼吸器内科専門医、気管
支鏡専門医、総合内科専門医

はじめに

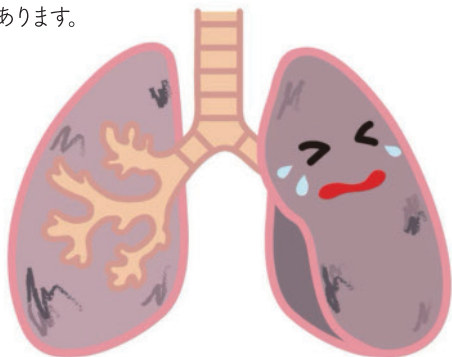
肺がん検診を受けたことはありますか？肺がんはがんの中でも死亡率の高い病気です。しかし、症状の出ないうちに早期に発見して治療をすれば約8割が治ると言われています。早期発見がとても大切です。

肺がんって
どんな病気？

肺は、呼吸によって酸素を体に取り込み、二酸化炭素を排出する大切な臓器です。肺は空気の通り道である気管・気管支・肺胞から構成され、これらの細胞が何らかの原因で、がん化したものが肺がんです。肺がんは初め、肺の中で増殖しますが、進行すると周囲の組織に広がったり、血液やリンパの流れに乗って他の臓器に転移することもあります。

肺がんの原因

肺がんの最大の原因はタバコです。タバコの煙に含まれる有害物質が肺の細胞を傷つけ、がんの発生につながります。ただし、タバコを吸わない人でも発症することがあります。また、受動喫煙、大気汚染、アスベストもリスクを高め、加齢や遺伝の影響もあります。



肺がんの症状

肺がんの早期はほとんど無症状です。肺がん検診やほかの病気で胸部レントゲンやCT撮影して偶然見つかることが多いです。肺がんが進行すると咳や息切れ、胸痛、体重減少、血痰などがみられます。症状が現れたときは、すでに進行していることが多いです。咳などがあっても、風邪やタバコのせいかと思って発見が遅れることがあります。

肺がんの検査

検診で異常が見つかった場合はCTを撮影します。CTで肺がんが疑われた場合は、気管支鏡検査などで肺の組織を採取し、血液検査で腫瘍マーカーも調べます。進行度(ステージ)を確認するため、造影CTや脳MRI、PET-CTも行います。ステージはⅠ～Ⅳ期に分けられ、Ⅳ期が最も進行した状態です。肺がんは脳や骨などにも転移しやすく、転移による症状で見つかることもあります。



肺がんの種類(組織型)

肺がんは「小細胞肺がん」と「非小細胞肺がん」に分けられ、後者が約85%を占めます。非小細胞肺がんは「腺がん」「扁平上皮がん」「大細胞がん」に分類され、最も多い腺がんは肺の末梢にできやすくタバコを吸わない人も発症するのが特徴です。扁平上皮がんはタバコと関連し気管支にできやすいがんです。大細胞がんはまれで進行が早く診断が難しいことがあります。小細胞肺がんは非常に進行が早く転移しやすいのが特徴です。組織型は診断と治療方針の決定にとっても重要です。

肺がんの治療

非小細胞肺がんは、早期であれば手術が基本です。進行がんでは化学療法や放射線治療、免疫療法、さらに遺伝子変異に応じた分子標的薬など、個別化治療が進んでいます。小細胞肺がんは進行が非常に早く、早期から全身に広がる傾向があります。限局型では抗がん剤と胸部放射線を併用し、脳転移を予防する全脳照射を行うこともあります。進展型では免疫療法を加えた化学療法を行います。

おわりに

肺がん検診は40歳以上が対象者です。肺がんの早期発見には肺がん検診を受けることが大切です。禁煙を始めてから、10年後に禁煙しなかった人と比べると肺がんのリスクを約半分に減らせることがわかっています。肺がんを予防するために、タバコを吸っている人は禁煙し、吸わない人はタバコの煙を避けて生活しましょう。また、気になる症状などがある場合は、なるべく早く受診してください。

Information

予防医学が紡ぐ
幸せな健康未来
～みどり市民病院の挑戦～

人生100年時代、自分自身はもちろん、大切な家族の健康を守る予防医療。大切な人の【小さな異変に気付く】【ちょっと生活習慣を見直す】きっかけを見つけてみませんか。

